本日 学生大会(1・講堂)で24市大教養ストシニマ授業放棄を決定しよう。

1 沖縄県民の斗争を孤立させるのか、否か

B52撤去、基地撤去、即時無条件全面返還をかかげた 沖縄県民の斗いは、新しい貌を獲得している。又、その規模に於いても、圧倒的大衆的な斗いが展開されようとしている。

燃える飲料水 いたる所に立てられた立入禁止、撮影禁止の厳存的看板、何時 果てるかもしれぬB52及び核の恐怖と戦慄 生活の糧をにもかかわらず基地にたさってきた日常 今目前で自らの生活を踏みにじり忍耐と犠牲の美名の下に 基地存続を掲げている者こそな遠くベトナムの民を直接に殺りくしているのだという事、これらの直接的な生活の実感から出てきた反戦と基地撤去の斗いをささえている広範な意識は、米民政府の如何なるドウカツ人労働者、カービン銃、解雇するゾー にも屈せず 佐藤政府のギマン的収拾策迎も通じようがなかった。安保条約が生みだした一切の至悪が、沖縄に最大に本土の各米軍基地に集中されている。我々は生活の実感として安保を知らないし、基地を知らない。しかしながら昨年来の伊丹空港軍事使用拒否の斗いを通してそしてより主要には全日学園斗争によって引き起こされた我々の誠実さへの告発と、学問そのものへの鋭い分析なしにはベトナムとの連帯も沖縄との連帯もあり得ないのではっという事 沖縄の斗争が孤立していると言う事は、そうした斗いの質に於いて孤立しているのであり沖縄が本土にはもはや頼らぬ」と「連帯」を拒否する時、我々は、我々が口にする連帯を再度問い返さなければならない。

2 連帯の中身を問い、ストライキに決起せよ!

沖縄との連帯と叫ぶ我々の斗争が、現在最も必要としているのは、我々の日常生活の場である学園の斗争と、国際連帯を主軸にした政治斗争との結合である。6・15 10・21斗争を労働者と共に御堂前り 他方労働者の斗争との結合である。

を斗って来た我々は、労働者の大部分が自らの生産原点の斗いを組み得ていない事を批判する。何故なら沖縄の斗争の孤立はその様な運動の質の次元で孤立しているからであり 彼らとの連帯を叫ぶ限りに於て、労働者は自己を問いつめる必要があるからである。では我々学生にとっては如何なる斗いの質が展望されなければならないか、我々にとっての生産原点とは何なのか その不断の問いかけを通してこそ沖縄斗争の勝利の道が開かれるのであり安保自動延長を目指す政府支配層に根源からの打撃を与えるであろう。

斗争方針と戦術の関連は一隅不問にされ単に主体的条件との連関のみに於て語られてきたという事は激動の時代には必然的に戦術主義に転落するものである。学園斗争の現象的側面を過大に評価し、いたずらに自己否定を口にするのは全日学園斗争の意味を理解していないばかりでなく衆とくするものである。教養ストライキ方針は

⇓ウラへ

統一会議 1/31